

国際的なイベントと感染症 (1)

静岡県立静岡がんセンター 感染症内科部長 倉井華子

静岡県は2019年9月にラグビーワールドカップ、2020年にオリンピック・パラリンピック自転車競技の会場になります。現時点でも外国人観光客が各地で増えているのを実感している方も多いのではないのでしょうか。国際イベントではさらに多くの人が訪日することから、海外からの感染症の流入とともに人が集まることによる感染症流行について、想定しておく必要があります。

海外から持ち込まれる疾患は多くあります。記憶に新しいところでは、2018年の沖縄を中心とした麻疹の流行や、静岡県内で発生した多剤耐性アシネトバクター感染症の事例があります。いずれも渡航者や海外での治療歴がある患者が発端となり流行が起こっています。そのほかにも国際イベントをきっかけに流行した髄膜炎菌感染症の事例や、中東から帰国した患者をきっかけに韓国で広がった中東呼吸器症候群(Middle East respiratory syndrome: MERS)の集団発生事例など多くの感染症事例があります。

感染症を考える上では、感染症が国内に入った場合の広がりやすさ(感染経路や、感染力)、臨床診断の難しさ、患者に与えるインパクト(致命率)を考える必要があります。特に広がりやすい感染症については、十分な予防対策が求められます。

東京オリンピックを想定し、海外からの訪日客が増加することで患者数が増加する可能性のある疾患、病原体が国内に入った場合の感染の広がりやすさを想定したものを表にまとめました。この中にはワクチンで防止できる疾患も多く、患者に接する可能性があるスタッフや医療従事者は可能な限り事前の予防接種を進めることが地域全体として求められています。患者は基幹病院を受診するとは限りません。麻疹事例では、最初に診療所を受診しているケースが数多くありました。一般の診療所においても十分な備えをしておくことが重要です。

表 1 東京オリンピックで見込まれる患者数増加・拡散リスクが高い疾患(文献2 改編)

現時点の頻度	患者数増加のリスク	拡散のリスク
高 (3000件以上/年)	インフルエンザ 感染性胃腸炎 結核 水痘 手足口病	水痘 インフルエンザ 感染性胃腸炎
中 (100-3000件/年)	風疹 麻疹 デング熱 細菌性赤痢	麻疹 風疹 デング熱
低 (10-100件/年)	侵襲性髄膜炎菌感染症 チクングニア熱	チクングニア熱 侵襲性髄膜炎菌感染症
非常に低い (10件以下/年)	中東呼吸器症候群(MERS)	中東呼吸器症候群(MERS) 鳥インフルエンザ 重症急性呼吸器症候群(SARS)

注:感染症の並びの順番はリスクの高い順

また広がりやすい感染症については、疑った時点で感染対策が求められます。特に空気感染しうる結核、麻疹、水痘は注意が必要です。この後は麻疹について解説していきます。

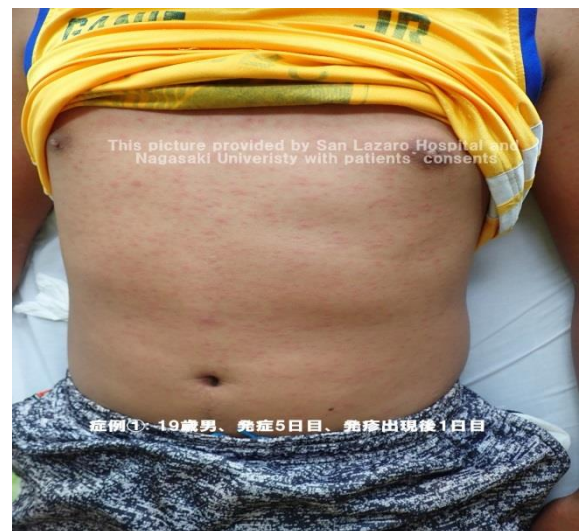
麻疹は近年患者数が減少し、国内で患者を診る機会が減りました。麻疹の臨床経験がない若手医師も増えてきており、診断が遅れる事例もあります。麻疹は典型例では発熱と上気道症状（咳や咽頭痛）、下痢、結膜充血、頬粘膜のコプリック斑（図 1）が出現します。最初は皮疹が出ないことが多く、なかなか疑うことが困難です。数日後に頭頸部から全身に発疹が広がります（図 2）。この時点でも薬疹と診断され見逃されている例があります。発疹は次第に融合し、徐々に暗赤色となり退色していきます。ただし、修飾麻疹（過去にワクチン接種歴が 1 回ある場合など不十分な免疫状態でかかる麻疹）ではカタル症状を欠くなど、典型的な症状を示さない場合もあります。まずは疑うこと、疑った場合には速やかに最寄りの保健所に相談ください。麻疹に特徴的な発疹、発熱、咳嗽・鼻汁・結膜充血などのカタル症状の 3 つがそろえば、臨床診断例として届け出ができます。

(<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-05-14-03.html>)

図 1 頬粘膜のコプリック斑



図 2 体幹部の発疹



(図: http://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/internal/philippine_case01.htm)

【文献】

- (1) IASR. 界スカウトジャンボリー(山口県)に関連したスコットランド隊員およびスウェーデン隊員の髄膜炎感染症事例について
<http://www.niid.go.jp/niid/ja/bac-meningitis-m/bac-meningitis-iasrs/5878-pr4272.html>
- (2) 和田耕治ら, 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に参与する自治体における感染症対策のためのリスク評価. 日医雑誌. 2016.145(7) 1459-1468

渡航地域の感染症情報は、厚生労働省検疫所 FORTH のホームページから得られます。

(<https://www.forth.go.jp/index.html>)